

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 1 区分
 【発行日】平成 29 年 2 月 16 日 (2017.2.16)

【公表番号】特表 2016-507049 (P2016-507049A)
 【公表日】平成 28 年 3 月 7 日 (2016.3.7)
 【年通号数】公開・登録公報 2016-014
 【出願番号】特願 2015-552907 (P2015-552907)
 【国際特許分類】

G 0 1 N 27/28 (2006.01)

G 0 1 N 1/22 (2006.01)

G 0 1 N 27/416 (2006.01)

【F I】

G 0 1 N 27/28 M

G 0 1 N 1/22 R

G 0 1 N 27/46 3 3 1

【手続補正書】
 【提出日】平成 29 年 1 月 11 日 (2017.1.11)
 【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

流体中の溶解ガスを測定する方法であって、
 前記流体から前記溶解ガスを遊離させるステップと、
 担体ガス内の前記遊離ガスを捕捉するステップと、
 電気化学的センサを用いて、前記溶解ガス濃度を測定するステップと、
 を備える方法。

【請求項 2】

前記溶解ガスは、一酸化窒素である、ことを特徴とする請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記流体から前記溶解ガスを遊離させる前記方法は、電磁放射を用いて、分子結合から前記ガスを解放し、前記流体から前記溶解ガスをガス抜きするステップを含む、ことを特徴とする請求項 1 に記載の方法。

【請求項 4】

前記電磁放射は、発光ダイオードを用いて生成される、ことを特徴とする請求項 3 に記載の方法。

【請求項 5】

前記ガス抜き方法は、熱蒸発による、ことを特徴とする請求項 3 に記載の方法。

【請求項 6】

前記遊離ガスを捕捉する前記方法は、環境大気から閉止されている、ことを特徴とする請求項 1 に記載の方法。

【請求項 7】

流体中の一酸化窒素を測定する装置であって、
 流体サンプルからの液体あるいは固体残留物を含む廃棄可能なコンポーネントと、
 ポンプ、1 以上のバルブ、一酸化窒素センサ、1 以上の制御部、及び、1 以上のユーザ
 インタフェースを備える再利用可能な装置コンポーネントと、

を備えることを特徴とする装置。

【請求項 8】

前記廃棄可能なコンポーネントは、一回の使用用に設計されている、ことを特徴とする請求項 7 に記載の装置。

【請求項 9】

前記廃棄可能なコンポーネントは、前記流体から一酸化窒素ガスを遊離させる手段を含んでいる、ことを特徴とする請求項 7 に記載の装置。

【請求項 10】

前記流体から一酸化窒素ガスを遊離させる前記手段は、電磁放射源を含む、ことを特徴とする請求項 9 に記載の装置。

【請求項 11】

前記流体から一酸化窒素ガスを遊離させる前記手段は、前記流体から前記一酸化窒素ガスをガス抜きする手段を備える、ことを特徴とする請求項 9 に記載の装置。

【請求項 12】

前記 1 以上の制御部と 1 以上のユーザインタフェースは、マイクロプロセッサを備える、ことを特徴とする請求項 7 に記載の装置。

【請求項 13】

一酸化窒素ガスを測定する前記センサは、電気化学的センサである、ことを特徴とする請求項 7 に記載の装置。

【請求項 14】

前記装置は、前記一酸化窒素含有ガスを捕捉する手段を含む、ことを特徴とする請求項 7 に記載の装置。

【請求項 15】

前記一酸化窒素含有ガスを捕捉する前記手段は、環境大気から閉止されている、ことを特徴とする請求項 14 に記載の装置。

【請求項 16】

前記装置は、前記電磁放射源を含む、ことを特徴とする請求項 10 に記載の装置。

【請求項 17】

前記電磁放射源は、1 以上の発光ダイオードを備える、ことを特徴とする請求項 16 に記載の装置。

【請求項 18】

前記廃棄可能なコンポーネントは、前記流体サンプルの前記液体及び固体を含む手段を含む、ことを特徴とする請求項 7 に記載の装置。

【請求項 19】

前記流体サンプルの前記液体及び固体コンポーネントを含む前記手段は、ガス浸透性膜である、ことを特徴とする請求項 18 に記載の装置。